活動報告

# 2013 年度　全学教育センター　FD 活動報告

矢　崎　裕美子
日本福祉大学　全学教育センター
岡　　多枝子
日本福祉大学　社会福祉学部

# Report on Faculty Development Activities by Nihon Fukushi University Educational Center in the Academic Year 2013

Yumiko YAZAKI
University Educational Center, Nihon Fukushi University
Taeko OKA
Faculty of Social Welfare, Nihon Fukushi University

## 1．2013 年度全学 FD 概要

2013 年度の全学 FD 活動では，2007 度から実施をしているきょうゆうサロンとバスツアー，2011 年度から開始したランチタイム FD に加え，ICT スキルアップ講座として今年度新たに導入された google システムの活用講座を実施した．さらに，例年の通り，新任教員を対象とした FD も実施した．各 FD の日程とテーマ，参加者数を表 1－1 に示す．なお，FD では Ustream（ユーストリーム）によるインターネットリアルタイム配信を行い，後日でも視聴できるようにした．各回の視聴人数は多くはなかったが，どの回にも視聴者がおり，異なるキャンパスでの視聴やリフレクションを含めて有用であると考える．

### 1－1．全学 FD

1）きょうゆうサロン・ランチタイム FD

きょうゆうサロンは 9 月に 1 回，ランチタイム FD は年 3 回（6 月，10 月，12 月）実施し，2011 年度からは年間の共通テーマを設けた．2013 年度は，「効果的な授業実践の共有」を全体テーマに掲げ，学内でさまざまな授業実践をしている教員に話題提供を依頼した．90 分間と開催時間の長いきょうゆうサロンでは，「知多地域をフィールドとした多様な活動を学ぶ」をテーマに，「美浜町空き家活用プロジェクトの実践とその意義」，「子どもと自然への認識を深める」，「知多半島における生態系ネットワーク形成とその課題」について，3 名の教員から各 20 分程度で報告していただいた．参加者とのディスカッションの中では，体験学習がどのように研究や進路に結びつくか等も議論となり，学生の意欲と活動を結びつける工夫等の情報交流も行われた．

一方，ランチタイム FD は，昼食の時間 12：40～13：20 を利用し，話題提供者には 15～20 分程度話をしていただき，その後を質疑応答の時間とした．6 月は「本学学生の文章力と授業実践」について，10 月は「大学の新情報環境の活用による情報共有・共同学習の促進」について，12 月は「オンデマンド科目『地震と減災社会』

**表 1－1　2013 年度全学 FD　実施日程**

| ①　全学 FD | | |
|---|---|---|
| 開催時期 | 開　催　テ　ー　マ | 参加人数<br>(Ustream 視聴者数) |
| 「きょうゆうサロン」効果的な授業実践の共有 | | |
| 2013 年 9 月 26 日 | 知多地域をフィールドとした多様な活動を学ぶ | 24 名<br>(3 名) |
| 「ランチタイムＦＤ」効果的な授業実践の共有 | | |
| 2013 年　6 月 26 日 | 本学学生の文章力と授業実践 | 32 名<br>(1 名) |
| 2013 年 10 月　9 日 | 大学の新情報環境の活用による情報共有・共同学習の促進 | 23 名<br>(6 名) |
| 2013 年 12 月 10 日 | オンデマンド科目「地震と減災社会」と震災への心構え<br>(半田キャンパスでの開催、美浜キャンパスでは遠隔でパブリックビューイング) | 13 名<br>(6 名) |
| 「きょうゆうサロンバスツアー」 | | |
| 2014 年 3 月 05 日予定 | 教育に活かす地域・観光資源の再発掘　－美浜・南知多バスツアー | 20 名程度を予定 |
| 「ICT スキルアップ講座」 | | |
| 2013 年 11 月 27 日 | Google Apps 活用講座 | 4 名 |
| 2013 年 12 月　4 日 | Google Apps 活用講座 | 10 名 |
| ②　新任教員 FD | | |
| 開催時期 | 開　催　テ　ー　マ | |
| 2013 年 4 月 1 日－3 日 | 新任教員オリエンテーション（キャンパス紹介，教務オリエンテーション等） | |
| 2013 年 5 月 30 日 | 障害学生や精神的に不安定な学生への対応の基本 | |
| 2013 年 12 月 5 日 | 大学組織や大学運営のしくみ／名古屋キャンパス施設見学 | |

と震災への心構え」と，いずれも全学的な教養教育の実践に関連するテーマについて，それぞれ 1～2 名の教員に話題提供を依頼した．ランチタイムは限られた時間内であるため，特に質疑応答の時間が短くなってしまい，「もう少し時間が取れると議論が深まる」など，もっと時間が欲しいとの声が毎回聞かれた．したがって，短時間で行うランチタイム FD は，以降の FD 事業として継続したり，更に焦点化したテーマ設定にしたりする検討が必要であろう．また，第 3 回目のランチタイム FD は，他の回に比べて参加者が 13 名と少なかった．理由としては，12 月の年末に近い開催時期により，多くの教職員の都合がつきにくかったという点と，半田キャンパスでの開催であった点が挙げられる．半田キャンパスの開催でありながらも，美浜キャンパスでは遠隔での参加が可能なように設定したが，結果的に広く周知されなかった可能性もある．今後は開催時期や周知の方法等に更なる工夫が必要である．

２）きょうゆうサロンバスツアー

きょうゆうサロンバスツアーは，例年 10 名～20 名の参加が得られており，2013 年度で 8 回目を迎える．今年度は，きょうゆうサロン・ランチタイム FD の共通テーマに合わせて，「教育に活かす地域・観光資源の再発掘」をテーマに，美浜町および南知多町の教育資源や観光資源の視察及び見学ツアーを行う予定である（2014 年 3 月実施）．

３）ICT スキルアップ講座

ICT スキルアップ講座は，本学の教育における情報活用の促進や教員の資質向上を目的として開催している．2011 年度は Microsoft Office やオンデマンド教材の活用法についても講座を行ったが，参加者が多くなかったため，10 名以上の参加者が得られた SPSS 講座のみ 2012 年度に開講した．しかし，SPSS 講座は内容が本学の教育に活かすといった全学 FD という範疇を越えてしまったようであり，講座の目的や扱う範囲については検討が必要であった．そこで，今年度は大学全体で新たに導入された新しい情報環境（Google のメールシステムおよびクラウドサービス）に伴い，Google Apps の活用をテーマに講座が設定された．具体的には，Google

Apps の紹介がなされた後，Google ドライブの「フォーム」および「文書」を作成し，アンケートフォームの作成や集計結果のダウンロードの仕方やデータの共有，リアルタイムでの共同編集やコメント，チャット機能の使用方法が説明され，参加者は実践を行った．参加者からは操作手順などについて活発な質問がなされた．学生・教職員ともに現在持っている大学のアカウントメールのみで Google システムが利用できることがメリットであるという意見も出された．参加者数が少なかった点は，第 3 回目のランチタイム FD 同様，時期の問題と周知の仕方の問題が挙げられる．Google システムの利用は今後も続くため，こうした講座は次年度以降も継続的に開催していきたい．

### 1－2．新任教員 FD

新任教員 FD は，本学に新たに赴任した専任教員を対象とした，FD 学習プログラムであり，2009 年度より実施している．この学習プログラムは例年概ね変わらず，赴任時のオリエンテーション，2 回の学習会と計 3 回の構成となっている（表 1－1 参照）．今年度も例年に倣い，4 月に新任教員オリエンテーション，5 月の第 1 回学習会には「障害学生や精神的に不安定な学生への対応の基本」，12 月の第 2 回学習会には「大学組織や大学運営のしくみ」をテーマに掲げて実施した．対象者は今年度の新任教員 24 名であった．第 1 回目の学習会は，過去の参加者アンケートより早い時期の開催を望む声が多かったため，例年の 6 月開催から 5 月下旬の開催とした．また，第 2 回目の学習会は，2012 年度に実施できなかった名古屋キャンパスの施設紹介も兼ねることができた．参加者からも概ね肯定的な声が得られた．ただし，勤務地の関係や学部による温度差もみられた．今後，複数にわたるキャンパスの問題や，通信課程，教員の雇用形態の多様化等の課題にきめ細かく対応していく必要がある．なお，当日に参加できなかった教員に対しては，収録した内容をオンデマンドで配信することで補うこととした．

## 2．全学 FD アンケート結果

全学 FD 活動では，各回に参加者アンケートを実施して次年度に活かす試みを 2010 年度より行っており，FD 活動全体を共通の基準で評価し，全体の傾向を把握することが可能である．以下では，特に全項目を共通の項目でたずねている「きょうゆうサロン」(1 回実施）および「ランチタイム FD」(3 回実施）のアンケートのまとめを報告し，今後の FD 活動の参考資料としたい．分析の観点は，参加者（延べ 92 名）の属性，参加者の評価得点および FD に対する満足度の規定因を把握することである．

1）アンケートに回答した参加者の属性

①　職種

専任教員が 46 名（71.9%），非常勤教員が 1 名（1.6%），専任職員が 11 名（17.2%），その他が 6 名（9.4%）であった．全回答者は計 64 名であり，アンケートの回収率は参加者の 69.6%であった．

②　所属学部

職員を除いた 50 名の結果は，社会福祉学部 21 名（42.0%），経済学部 6 名（12.0%），健康科学部 0 名（0.0%）子ども発達学部 9 名（18.0%），国際福祉開発学部 4 名（8.0%），福祉経営学部 4 名（8.0%），全学教育センター 6 名（12.0%）であった．

2）参加者の評価得点

上記の回答者 64 名分のアンケート結果について，平均値と標準偏差を算出した．その結果，「そう思う（4 点)」～「そう思わない（1 点)」の 4 件法でたずねた全ての項目が，3 点以上の平均値を示した（表 2－1)．つまり，FD に参加した多くの教職員が，肯定的な評価をしたことが分かる．特に，きょうゆうサロンはアンケートの回収率が 54.2%と良くなかったものの，回答者の満足度（項目 1「今回の FD は全体的に満足のいくものだった」）は 4 点と最高点を示した．

3）FD に対する満足度の規定因

2）で分析した満足度と他の項目の関連を見るため，きょうゆうサロン，ランチタイムのデータを全て含め，全項目間の相関係数を算出した．その結果，満足度はすべての項目と有意な正の相関を示し（表 2－2)，全項目において，肯定的な評価をした人ほど満足度も高いことが言える．とりわけ，「FD を通して有益な情報を得ることができた」，「今回の内容は今後の自身の取組（指導・支援）に役立ちそうだ」という項目と満足度との相関が高く，教育の実践に直接役立ちそうな情報を得たことが参加者の満足感につながったことが分かった．

**表 2－1　FD 活動に対する評価得点（平均値と標準偏差）**

| 質　問　項　目 | | きょうゆうサロン N＝13 | | ランチタイム FD N＝51 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 1 | 今回の FD は全体的に満足のいくものだった | 4.00 | 0.00 | 3.55 | 0.54 |
| 2 | FD の目的は分かりやすく説明された | 4.00 | 0.00 | 3.51 | 0.74 |
| 3 | 内容はちょうど良いレベルに設定されていた | 3.85 | 0.38 | 3.45 | 0.93 |
| 4 | 分かりやすい順序で進められた | 4.00 | 0.00 | 3.61 | 0.60 |
| 5 | 配布資料は分かりやすかった | 3.69 | 0.48 | 3.47 | 0.67 |
| 6 | 話題提供者の説明は分かりやすかった | 4.00 | 0.00 | 3.68 | 0.55 |
| 7 | FD を通して有益な情報を得ることができた | 4.00 | 0.00 | 3.33 | 0.84 |
| 8 | 今回の内容は今後の自身の取組（指導・支援）に役立ちそうだ | 3.92 | 0.28 | 3.33 | 0.86 |

**表 2－2　各項目の相関係数**

| | | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 今回の FD は全体的に満足のいくものだった | .533** | .585** | .595** | .569** | .522** | .649** | .658** |
| 2 | FD の目的は分かりやすく説明された | — | .315* | .306* | .259* | .282* | .286* | .354** |
| 3 | 内容はちょうど良いレベルに設定されていた | | — | .718** | .477** | .431** | .468** | .470** |
| 4 | 分かりやすい順序で進められた | | | — | .676** | .752** | .583** | .559** |
| 5 | 配布資料は分かりやすかった | | | | — | .661** | .513** | .578** |
| 6 | 話題提供者の説明は分かりやすかった | | | | | — | .651** | .713** |
| 7 | FD を通して有益な情報を得ることができた | | | | | | — | .915** |
| 8 | 今回の内容は今後の自身の取組（指導・支援）に役立ちそうだ | | | | | | | — |

** p＜.01　* p＜.05

## ３．総括

FD のテーマを年間で通したことにより，さまざまな視点から，「効果的な授業実践の共有」を考えることができた．大学は高等教育機関として専門教育を学ぶ場所であることはいうまでもないが，時代の変化とともに，大学教育に求められるものも多様化している．特に，本学は「ふくし」を学ぶ総合大学として，地域とのつながりや社会資源の活用を教育の現場に持ち込むことが重要である．その意味でも，本学の拠点となる知多地域をフィールドとした子どもと自然への認識を深める教育実践や，美浜町空き家活用プロジェクト，知多半島の生態系ネットワーク形成，地震と減災社会の課題などに学ぶ意味は大きい．さらに，学ぶ基礎力となる文章力をいかに習得させるか，新情報環境の活用による情報共有・共同学習をいかに促進するかなど，まさに本学の教育活動に求められるテーマであり，FD 活動を通して教職員が教育課題を議論し共有する場となった意義は大きい．

スキルアップ講座では，FD の一環として，Google Apps によるアンケート作成と集計に関する実践的研修を行い，Google システムの利用に関する可能性を確認することができた．こうした講座は次年度以降も継続的に開催して，ゼミや授業に気軽に取り入れていただくことを願っている．

新任教員 FD は，2012 年度に実施できなかった名古屋キャンパスの見学もでき，講師に近藤副学長を迎えて大学運営組織の概要を包括的に研修する場となった．雇用形態が多様化するなかで，教員として求められる役割が異なるが，それ故に FD を通して情報交流を行う意味もあると考える．開催時期に関して検討の余地はあるものの，本学の特徴を示すプログラムにもなっており，次年度も変わらず実施をしていきたい．

バスツアーは，本稿を認めている時点では計画段階であり総括はできないが，「知多地域をフィールドとした多様な活動を学ぶ」をテーマに，きょうゆうサロンで話題提供していただいた「美浜町空き家活用プロジェクト」の現場に出かけてシンポジウムを開催する．さらに，経済学部が取り組んできた「福だまり」の醸造現場への訪問をはじめ，本学の教育プログラムと密接な関係がある地域での教育資源の再発見には意義があると考えている．